

第18回 明治大学小史展

尾 佐 竹 猛 展

会期 2005年4月26日（火）～9月29日（木）

会場 駿河台キャンパス・大学会館1階ロビー

主幹 明治大学史資料センター事務室

今回の明治大学小史展で取り上げた尾佐竹猛（おさたけたけき）は、1880（明治13）年、旧金沢藩の下級武士の家に生まれました。1896（明治29）年に東京へ遊学、明治大学の前身である明治法律学校に入学します。1899（明治32）年、同校を優秀な成績で卒業後、法曹の世界で活躍、現在の最高裁判所に相当する大審院で判事を務めました。

また教育者として明治大学で教鞭を執り、特に1932（昭和7）年の専門部文科（文学部の前身）再興に深く関わり、初代専門部文科長（学部長に相当）を務めました。

そして、学者としての研究成果は、「明治維新史」、「憲政史」、「法制史」、「文化史」、「地方史」と多岐にわたり、新しい歴史観を拓きました。

なお、展示に関するお問い合わせは、明治大学史資料センター事務室（大学会館6階）までお願いいたします。



尾 佐 竹 猛

I 尾佐竹猛の業績

展示スペースの関係で、資料の配列が一部前後しております。

1 尾佐竹猛肖像

尾佐竹猛は、1899（明治32）年に明治法律学校を卒業、その後、各地方の裁判所や控訴院で判事を歴任、さらに1924（大正13）年1月には大審院判事になりました。

2 尾佐竹猛・著書

尾佐竹猛の著作活動は、大正時代末期から昭和戦前期が中心です。戦後直後には『著作集』の刊行も計画されましたが、全巻刊行されずに終了しています。

展示では、10冊程度の著書を紹介しています。随時展示替えをおこないます。

3 尾佐竹猛・書簡

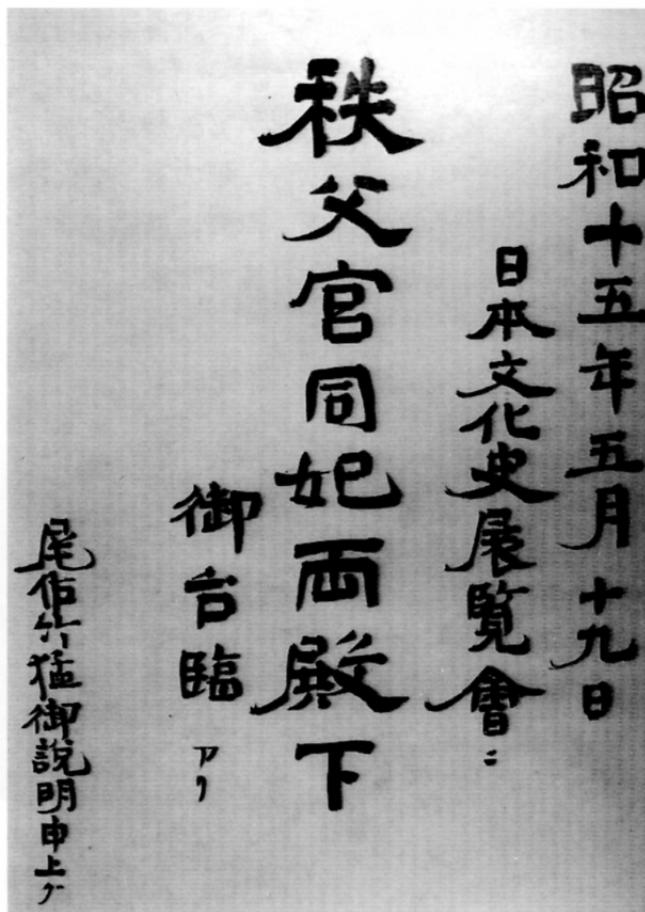
研究者としての尾佐竹猛を語る場合、明治文化研究会における活動が特筆されます。明治文化研究会とは、吉野作造を中心となって設立された会です。活動時期は大正・昭和期で、同人には、初代の会長でもある吉野をはじめ、この書簡の宛て先でもある宮武外骨、石井研堂、小野秀雄などがあり、尾佐竹も中心的メンバーとして参加していました。

4 『海南法権史』（1908・明治41年）

この『海南法権史』は、尾佐竹猛が新島の裁判所に勤務していた時に著したものです。明治大学史資料センター運営委員の調査により発見されました。

5 日本文化史展覧会（1940・昭和15年）

この写真の裏面には、右記のように記されています。山田仁彦氏より受贈。



展示スペースの関係で、資料の配列が一部前後しております。 II 尾佐竹猛と明治大学

6 明治法律学校卒業関係記事・『明治法学』第2号（1899・明治32年）

尾佐竹猛は、1899（明治32）年7月、資料にあるように優秀な成績で明治大学の前身・明治法律学校を卒業しました。その後、同年11月の第1回判事登用試験に合格します。

7 尾佐竹猛と校友会・『明治法学』第51号（1903・明治36年）

尾佐竹猛は、1902（明治35）年12月、校友会福井支部の幹事に選出されています。その後も尾佐竹は、校友会との関係を持ちつづけます。

8 明治大学校友会評議員に就任・『明治大学学報』第23号〔コピー〕（1918・大正7年）

尾佐竹猛は、1918（大正7）年7月に明治大学の校友会評議員に就任します。

9 関東大震災後の臨時校友総会に出席・『明治大学学報』第86号〔コピー〕（1924・大正13年）

関東大震災は、明治大学に甚大な被害をもたらし、学園存続の危機さえ、ささやかれました。多くの関係者が復興に協力する中、尾佐竹猛も、この臨時校友総会に参加し、震災の被害状況の報告を受け、復興策について話し合いをおこないました。

10 明治大学商議委員に就任・『明治大学学報』第94号〔コピー〕（1924・大正13年）

尾佐竹猛は、1924（大正13）年8月、校友会選出の商議委員に選出されました。商議委員会は、法人の最高意思決定機関で、実務に最高責任を持つ理事の任免権を持っていました。

11 明治教育文化展覧会・「駿台新報」〔コピー〕（1928・昭和3年4月21日）

尾佐竹猛は、明治大学創立45周年・旧記念館竣工を記念して開催された「明治教育文化展覧会」の委員になりました。なお、この展示会は、明治大学における最初の大学史展示でした。

12 文科復活趣意書（1931・昭和6年）

13 文科復活記事（1932・昭和7年）・「駿台新報」（1932・昭和7年3月12日）

明治大学には、1904（明治37）年から1909（明治42）年にかけて文科（文学部の前身）が設置されていました。しかし、この文科は一旦廃止され、1932（昭和7）年に復活します。資料12は、文科復活に向け、その前年に臨時商議委員会に提出された趣意書で、尾佐竹猛の名前も見えます。資料13は、文科復活を伝える「駿台新報」の記事です。尾佐竹については「明大の産んだ司法畑の偉才」と紹介されています。

尾佐竹猛 略年表

- 明治13年（1880） 旧金沢藩士・尾佐竹保、愛の長男として生まれる（1月）。
- 明治27年（1894） 高浜小学校卒業（3月）。
- 明治29年（1896） 東京へ遊学。
- 明治32年（1899） 明治法律学校を優秀な成績で卒業（7月）。
- 判事登用試験に合格（11月）。
- 大正13年（1924） 大審院判事（1月）。
- 吉野作造らと明治文化研究会を創立（11月）。
- 昭和3年（1928） 「明治教育文化展覧会」に委員として参加。
- 「維新前後における立憲思想」で、東京帝国大学（現、東京大学）より法学博士の学位を受ける（11月）。
- 昭和7年（1932） 明治大学に専門部文科（文学部の前身）が再興され、初代専門部文科長に就任（4月）。
- 昭和8年（1933） 明治文化研究会の2代目会長に就任。
- 昭和17年（1942） 大審院検事（12月）。
- 昭和21年（1946） 死去（10月）。

★明治大学史資料センターからのお知らせ★

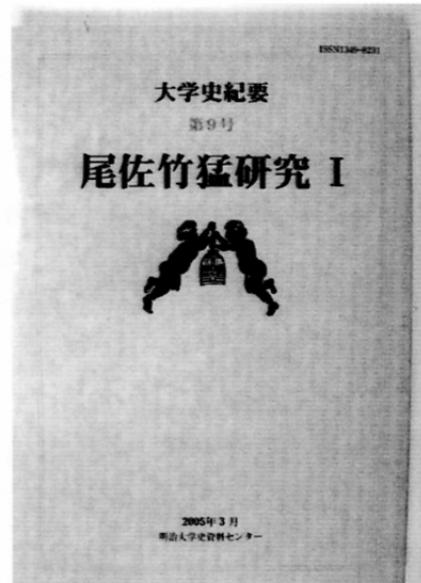
明治大学史資料センターでは、このたび、『大学史紀要』第9号を「尾佐竹猛研究Ⅰ」と題し刊行しました。

今後も著作集（仮）（2005年9月、第1期刊行予定、詳細は未定）、また、『大学史紀要』第10号において「尾佐竹猛研究Ⅱ」の刊行を計画しております。

『大学史紀要』第9号

*価格 800円

*頒布場所 明治大学史資料センター事務室
(明治大学駿河台キャンパス・大学会館6階)



〔編集・発行〕 明治大学史資料センター事務室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

電話 03-3296-4329 FAX 03-3296-4086

URL <http://www.meiji.ac.jp/history/>

〔発行日〕 2005年4月26日

〔印刷〕 二葉印刷有限会社